

財務レビュー

経営成績の概要

2024年3月期における太陽誘電を取り巻く経営環境は、世界景気は緩やかな持ち直しの動きが見られたものの、一部地域において弱さが見られるなど不透明な状況が続きました。先行きについては、国際情勢、金融資本市場の変動などを注視する必要がありますが、緩やかな回復が続くことが期待されます。

太陽誘電は、中期経営計画2025に掲げた目標の実現に向けて自動車、情報インフラ・産業機器を中心とした注力すべき市場の売上比率を50%とすることを目指しています。さらに、ハイエンド商品、高信頼性商品を中心とした高付加価値な電子部品を創出し、主力事業の積層セラミックコンデンサのさらなる成長に加え、インダクタと通信用デバイスを強化してコア事業として確立していきます。また、需要拡大に対応するための継続的な能力増強に加え、環境対策やIT整備に向けた積極的な取り組みを実施し、5年間で3,000億円規模の設備投資を計画しています。

これらの結果、2024年3月期の連結売上高は、前期比1.0%増の3,226億47百万円となりました。

なお、2024年3月期における期中平均の為替レートは1米ドル143.32円と前年同期の平均為替レートである1米ドル134.20円と比べ9.12円の円安となりました。

販売費及び一般管理費

2024年3月期の販売費及び一般管理費は、563億76百万円となり、前期に比べ9億37百万円増加しました。販売費及び一般管理費の主要な項目は、従業員給料手当137億7百万円、研究開発費136億96百万円などになります。

この結果、営業利益は前期比71.6%減の90億79百万円となりました。

営業外損益

2024年3月期の営業外収益は前期に比べ27億77百万円増加し、65億46百万円となりました。一方、営業外費用は支払利息、支払補償費の増加などにより、前期に比べ9億51百万円増加し、18億68百万円となりました。

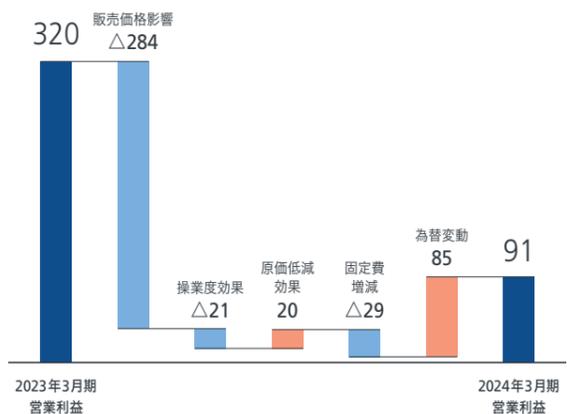
この結果、経常利益は前期比60.5%減の137億57百万円となりました。

特別損益

2024年3月期の特別利益は、投資有価証券売却益、ゴルフ会員権売却益を計上したことなどで、前期に比べ99百万円増加し、2億71百万円となりました。特別損失は減損損失、固定資産除売却損が減少し、前期計上した子会社のエルナー株式会社にかかる独占禁止法関連損失が当期は発生しなかったことなどから、前期に比べ29億45百万円減少し、9億56百万円となりました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比64.2%減の83億17百万円となりました。

2024年3月期 営業利益増減要因
(億円)



財政状態の概況

資産

2024年3月期末における総資産の残高は5,796億86百万円となり、前期末に比べ762億23百万円増加しました。

流動資産は228億23百万円増加しており、主な要因は、現金及び預金の増加155億85百万円、受取手形及び売掛金の増加108億26百万円、仕掛品の減少18億91百万円、商品及び製品の減少14億8百万円です。また、固定資産は534億円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加529億66百万円です。

負債

2024年3月期末における負債の残高は2,495億87百万円となり、前期末に比べ646億3百万円増加しました。主な要因は、転換社債型新株予約権付社債の増加511億70百万円、長期借入金の増加334億41百万円、支払手形及び買掛金の増加67億32百万円、短期借入金の減少260億円、1年内返済予定の長期借入金の減少87億2百万円です。

純資産

2024年3月期末における純資産の残高は3,300億98百万円となり、前期末に比べ116億20百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益83億17百万円と剰余金の配当112億15百万円による、利益剰余金の減少28億97百万円、及び円安等の為替影響による為替換算調整勘定の増加147億74百万円です。

キャッシュ・フローの状況

2024年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローは511億4百万円の収入(前期比29.5%増)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益130億73百万円、減価償却費393億91百万円、棚卸資産の減少額71億46百万円、売上債権の増加額48億40百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは827億93百万円の支出(前期比37.0%増)となりました。主な要因は、固定資産の取得による支出799億7百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは376億47百万円の収入(前期比159.9%増)となりました。主な要因は、転換社債型新株予約権付社債の発行による収入511億33百万円、長期借入れによる収入427億8百万円、短期借入金の減少額260億円、長期借入金の返済による支出179億69百万円、配当金の支払額111億98百万円です。

以上の結果、2024年3月期末における現金及び現金同等物は、前期末に対して108億15百万円増加し、949億40百万円となりました。

2024年3月期末の外部からの資金調達は、短期借入金42億円、1年内返済予定の長期借入金92億55百万円、転換社債型新株予約権付社債511億70百万円、長期借入金842億19百万円からなっています。借入金は原則として日本において固定金利で調達しています。さらに、財務の安定性のため期間3年、300億円のコミットメントライン借入枠を設定していますが、2024年3月末現在未使用です。

太陽誘電は、健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力を有しており、太陽誘電の成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えています。